

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日
Date of Application:

2002年 7月 9日

出 願 番 号
Application Number:

特願2002-199429

[ST.10/C]:

[JP2002-199429]

出 願 人
Applicant(s):

ユニ・チャーム株式会社

2003年 5月27日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田 信一郎



出証番号 出証特2003-3039310

【書類名】 特許願

【整理番号】 021079UC

【提出日】 平成14年 7月 9日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 B65D 1/00
B65D 1/14

【発明者】

【住所又は居所】 香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀 1 5 3 1 - 7 ユニ・
チャーム株式会社テクニカルセンター内

【氏名】 宮脇 正美

【発明者】

【住所又は居所】 香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀 1 5 3 1 - 7 ユニ・
チャーム株式会社テクニカルセンター内

【氏名】 丹下 明子

【発明者】

【住所又は居所】 香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀 1 5 3 1 - 7 ユニ・
チャーム株式会社テクニカルセンター内

【氏名】 湯浅 加織

【特許出願人】

【識別番号】 000115108

【氏名又は名称】 ユニ・チャーム株式会社

【代理人】

【識別番号】 100085453

【弁理士】

【氏名又は名称】 野▲崎▼ 照夫

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 041070

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明 細 書

【発明の名称】 収納容器

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 内容物を収納する収納部を有し上面が開口している容器本体と、前記容器本体の開口部を覆う状態で前記容器本体に着脱自在に取り付けられる蓋体とを有する収納容器において、

前記容器本体と前記蓋体の少なくとも一方の外部に、玩具部材が取り付けられていることを特徴とする収納容器。

【請求項 2】 前記容器本体に穴が形成され、前記穴から延びる連結部材に前記玩具部材が取付けられている請求項 1 記載の収納容器。

【請求項 3】 前記容器本体の 2 箇所に前記穴が形成されて、前記連結部材は一方の穴から容器本体内を経て他方の穴から外部に延びており、それぞれの穴から外部に延びる連結部材のそれぞれに前記玩具部材が取付けられている請求項 2 記載の収納容器。

【請求項 4】 前記穴は、前記容器本体の前記収納部の上方で、前記収納部に収納される内容物よりも上の位置に設けられている請求項 2 または 3 記載の収納容器。

【請求項 5】 前記玩具部材は、前記容器本体と前記蓋材の少なくとも一方の外面においてスライド自在に設けられたスライド体である請求項 1 記載の収納容器。

【請求項 6】 前記外面には、互いに対向して平行に形成された一对のレール部が設けられ、前記スライド体は、一对の前記レール部の間に位置して前記レール部に沿って摺動自在に取付けられている請求項 5 記載の収納容器。

【請求項 7】 前記外面に図柄が描かれており、前記スライド体は前記図柄の上で移動可能である請求項 6 記載の収納容器。

【請求項 8】 前記玩具部材は、前記容器本体に取り付けられた持ち手部材である請求項 1 記載の収納容器。

【請求項 9】 前記持ち手部材の両端部は前記容器本体に回動自在に連結されている請求項 8 記載の収納容器。

【請求項 1 0】 前記蓋体の上面に内容物の取り出し口が形成されていると共に、前記蓋体の上面には前記取り出し口を覆う小蓋片が開閉自在に設けられており、前記持ち手部材が前記蓋体の上方へ回動させられたときに、この持ち手部材は、開放状態の前記小蓋片と当たらない位置にある請求項 8 または 9 記載の収納容器。

【請求項 1 1】 前記内容物はティッシュである請求項 1 ないし 1 0 のいずれかに記載の収納容器。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は、例えば人体を拭くためのウエットティッシュまたはドライティッシュ、あるいは使い捨ておむつなどを収納する収納容器に係り、特に乳児から幼児を対象とした収納容器に関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術及びその問題点】

乳幼児のおむつ交換時のお尻拭き、または幼児の手拭きや口拭きにウエットティッシュが使用される。このウエットティッシュは軟質なシートで形成されたピロー包装体の内部に收容されており、このピロー包装体の開封片を剥がしてティッシュを 1 枚ずつ取り出して使用し、あるいは前記ピロー包装体をプラスチック製の収納容器内に収納して、前記ピロー包装体の内部のティッシュを前記収納容器の取り出し口から 1 枚ずつ取り出して使用する。

【 0 0 0 3 】

しかし従来の前記収納容器は、ティッシュの収納のしやすさやティッシュの取り出しやすさなどについての工夫がなされているものの、外観デザインを乳幼児の趣向に合わせたものではなかった。そのため、例えばおむつ交換や、その後にお尻を拭くときに、遊び道具を用意して乳幼児をあやしながらおむつ交換をしているのが実態である。

【 0 0 0 4 】

また、特開平 9 - 1 5 6 6 4 4 号公報には、ウエットティッシュの収納容器の

外観を楽しめるようにした発明が開示されている。この発明は、菓子やジュースを収納していた空き缶の上面を切り取り、ウェットティッシュを収納した容器本体を前記空き缶の内部に收容させ、気に入った空き缶に交換できるようにしたものである。ウェットティッシュの収納容器の外観を空き缶とすることにより、個人の趣向に合わせることができるようにしたものである。

【 0 0 0 5 】

しかし、この発明はむしろ大人の趣向に合わせたものであり、必ずしも乳幼児の好みのものとはならない。また空き缶を使用しているため、乳幼児が手にしたときに缶の切り口の部分で怪我をする心配もある。

【 0 0 0 6 】

本発明は上記従来課題を解決するものであり、ティッシュなどの内容物を収納した容器を乳幼児の趣向に合うようにし、また乳幼児の年齢に応じたものとすることが可能な収納容器を提供することを目的している。

【 0 0 0 7 】

【課題を解決するための手段】

本発明は、内容物を収納する収納部を有し上面が開口している容器本体と、前記容器本体の開口部を覆う状態で前記容器本体に着脱自在に取り付けられる蓋体とを有する収納容器において、

前記容器本体と前記蓋体の少なくとも一方の外部に、玩具部材が取り付けられていることを特徴とするものである。

【 0 0 0 8 】

この収納容器では、容器外部に玩具部材が取付けられているため、収納容器内から内容物を取り出して、例えば乳幼児のおむつを交換したり、または乳幼児の手拭きや口拭きなどを行っている際に、乳幼児が収納容器で遊ぶことができる。

【 0 0 0 9 】

例えば、前記容器本体に穴が形成され、前記穴から延びる連結部材に前記玩具部材が取付けられているものとして構成できる。

【 0 0 1 0 】

この収納容器は月齢が 6 ～ 1 1 ヶ月くらいの乳幼児の趣向に合うものとなり、

おもっ交換中などに容器から出ている玩具で遊ぶことができる。

【 0 0 1 1 】

この場合に、前記容器本体の 2 箇所前記穴が形成されて、前記連結部材は一方の穴から容器本体内を経て他方の穴から外部に延びており、それぞれの穴から外部に延びる連結部材のそれぞれに前記玩具部材が取付けられているものにできる。

【 0 0 1 2 】

このように構成すると、一方の側に突出する玩具部材を引っ張ると他方の側に突出する玩具部材が引っ込むようになり、乳幼児が喜んで遊ぶようになる。

【 0 0 1 3 】

また、前記穴は、前記容器本体の前記収納部の上方で、前記収納部に収納される内容物よりも上の位置に設けられていることが好ましい。

【 0 0 1 4 】

このように構成すると、容器本体内に位置する連結部材が前記内容物の収納を阻害することがない。

【 0 0 1 5 】

または、前記玩具部材は、前記容器本体と前記蓋材の少なくとも一方の外面上においてスライド自在に設けられたスライド体である。

【 0 0 1 6 】

この場合に、前記外面上には、互いに対向して平行に形成された一対のレール部が設けられ、前記スライド体は、一対の前記レール部の間に位置して前記レール部に沿って摺動自在に取付けられているものにできる。

【 0 0 1 7 】

また、前記外面上に図柄が描かれており、前記スライド体は前記図柄の上で移動可能なものにできる。

【 0 0 1 8 】

このスライド体を設けたものは、例えば月齢が 1 2 ～ 1 7 ヶ月程度の幼児の趣向に合うものとなる。

【 0 0 1 9 】

または、前記玩具部材は、前記容器本体に取付けられた持ち手部材である。

この持ち手部材を設けたものは、例えば月齢が 1 8 ～ 2 3 ヶ月程度の幼児の趣向に合うものとなる。

【 0 0 2 0 】

この場合に、前記持ち手部材の両端部は前記容器本体に回動自在に連結されているものとして構成できる。

【 0 0 2 1 】

また、前記蓋体の上面に内容物の取り出し口が形成されていると共に、前記蓋体の上面には前記取り出し口を覆う小蓋片が開閉自在に設けられており、前記持ち手部材が前記蓋体の上方へ回動させられたときに、この持ち手部材は、開放状態の前記小蓋片と当たらない位置にあるものが好ましい。

【 0 0 2 2 】

このように持ち手部材を長いものにすると、持ち手部材を手で持って収納容器をぶら下げた状態で、小蓋片を開けてティッシュなどの内容物を取り出すことも可能である。

【 0 0 2 3 】

なお前記内容物は、例えばウェットティッシュやドライティッシュである。あるいは使い捨ておむつ、乳幼児に使用させるごみ捨て袋、その他の乳幼児用品であってもよい。

【 0 0 2 4 】

【発明の実施の形態】

図 1 は本発明の第 1 の実施の形態の収納容器 1 を示す斜視図、図 2 は図 1 に示す収納容器 1 の容器本体 2 のみを示す斜視図、図 3 は、図 1 に示す収納容器 1 を、 I I I 矢視方向から見た正面図である。

【 0 0 2 5 】

図 1 に示す収納容器 1 は、容器本体 2 と、蓋体 3 との組み合わせにより構成されている。この実施の形態では、前記容器本体 2 の内容物は、例えば乳幼児のおむつ交換時のお尻拭き、または手拭きや口拭きなどに使用されるウェットティッシュ 2 0 である。

【 0 0 2 6 】

このウェットティッシュ 2 0 は、紙または不織布などのシート状担体に、水やアルコールなどの液体が含浸されたものである。このウェットティッシュ 2 0 が複数枚積層された積層体はピロー包装体に収納されているのが一般的であり、前記収納容器 1 にこのピロー包装体が納められる。

【 0 0 2 7 】

前記容器本体 2 と蓋体 3 はプラスチック材料により形成されており、例えばポリプロピレン（PP）、高密度ポリエチレン（HDPE）などにより形成されている。図 1 に示すように前記蓋体 3 の上面 3 a には、開閉自在な小蓋片 1 3 が設けられている。前記小蓋片 1 3 の基部は前記蓋体 3 に軸によって回動自在に連結されており、または前記小蓋片 1 3 は、樹脂によって蓋体 3 と一体に形成され、蓋体 3 と小蓋片 1 3 との境界部で樹脂が薄肉となってヒンジが形成されている。

【 0 0 2 8 】

前記蓋体 3 の上面 3 a には前記小蓋片 1 3 の形状に対応し前記小蓋片 1 3 の厚みと同じ深さの凹部 3 b が形成されており、前記凹部 3 b のほぼ中央にはウェットティッシュ 2 0 を取り出す取出し口 2 1 が開口している。前記収納容器 1 を使用しないとき、前記小蓋片 1 3 を前記凹部 3 b 内に嵌合させることによって、前記取出し口 2 1 を覆うことができる。前記蓋体 3 の上面 3 a には、前記凹部 3 b と連続する小凹部 3 c が形成されている。前記小凹部 3 c 内に指を入れて前記小蓋片 1 3 を上に持ち上げることにより、取出し口 2 1 を露出させることができる。

【 0 0 2 9 】

図 2 に示すように、前記容器本体 2 は、底板 4 と、前記底板 4 の周囲を囲む 4 枚の側板 5、6、7、8 とで構成される。前記底板 4 と側板 5、6、7、8 は一体に形成されている。そして、前記側板 5、6、7、8 の内面 5 a、6 a、7 a、8 a と、底板 4 の内面 4 a とで囲まれた空間が収納部 9 であり、前記内面 5 a、6 a、7 a、8 a の上縁部で囲まれた部分が開口部 1 1 である。

【 0 0 3 0 】

図 2 に示すように、前記容器本体 2 の前側の側板 6 には、内面 6 a と外面 6 b

を貫通する2つの穴10、11が設けられている。また、前記前側の側板6と対向する後側の側板7側にも穴12、13が貫通して設けられている。前記前側の側板6に設けられた左側の穴10と、前記後側の側板7に設けられた左側の穴12は、それぞれの側板6、7内で同位置に設けられている。同様に、前記前側の側板6に設けられた右側の穴11と、前記後側の側板7に設けられた右側の穴13は、それぞれの側板6、7内で同位置に設けられている。

【0031】

前側の側板6に設けられた右側の穴11から収納部9を通して穴13にかけて連結部材14が通され、この連結部材14の両側端部にそれぞれ玩具部材15、16が取り付けられている。同様に、前側の側板6に設けられた左側の穴10から収納部9を通して穴12にかけて連結部材17が通され、この連結部材17の両側端部にそれぞれ玩具部材18、19が取り付けられている。

【0032】

図1に示すように、この収納容器1では、蓋体3のすぐ下の位置に現れる穴11、13から前記連結部材14の一部と玩具部材15、16が突出しており、同様に、蓋体3のすぐ下の位置に現れる穴10、12からそれぞれ前記連結部材17の一部と玩具部材18、19とが外側に突出している。

【0033】

前記連結部材14、17は、樹脂繊維を撚って形成された紐、または天然繊維を撚って形成された紐である。なお前記連結部材14、17がゴム紐のように伸縮可能なものであってもよい。また前記連結部材14、17の断面形状が円形状か楕円形状であると、この連結部材14、17を各穴内でスムーズに動かせることができる。

【0034】

前記連結部材14、17は、側板6の外表面6bと側板7の外表面7b間の寸法よりも長いものとなっている。これにより、前記穴10、11、12、13から前記連結部材14、17の一部を十分に長く突出させることができ、玩具部材15、16、18、19を前記側板6、7の外表面6b、7bから離れた遊びやすい位置に配置できる。

【 0 0 3 5 】

前記玩具部材 1 5 は、リング形状、玩具部材 1 8 はグローブ形状、玩具部材 1 6 と 1 9 は球状である。ただし、前記玩具部材は如何なる形状のものであってもよい。

【 0 0 3 6 】

また前記玩具部材 1 5、1 6、1 8、1 9 として、内部が空洞で内部に多数の粒状体が入っており、振ったときに音が鳴るものを取り付けることができる。これらの玩具部材 1 5、1 6、1 8、1 9 は、乳幼児が舐めても安全な樹脂等で形成されている必要がある。そこで前記玩具部材 1 5、1 6、1 8、1 9 の材質には、舐めても大丈夫な玩具安全認定マーク（S T マーク）が付されたものから選択される。

【 0 0 3 7 】

また乳幼児に対し安全なように前記玩具部材 1 5、1 6、1 8、1 9 は、角部や直線状の部分がなく、全体に丸みを帯びた形状であることが好ましい。同様に前記容器本体 2 や蓋体 3 も鋭角な角部がなく丸みを帯びた外形であることが好ましい。

【 0 0 3 8 】

前記玩具部材 1 5、1 6、1 8、1 9 の大きさは、乳幼児が口に含むことができる程度の大きさであることが好ましく、前記玩具部材 1 5、1 6、1 8、1 9 の最大幅寸法は概ね 1 5 m m ～ 5 5 m m 程度であることが好ましい。

【 0 0 3 9 】

図 1 および図 3 に示すように、前記容器本体 2 の収納部 9 内には、ピロー包装体 2 3 が収納されている。このピロー包装体 2 3 は、樹脂フィルムまたは樹脂フィルムとアルミ箔とのラミネート材などの軟質な包装材料でウェットティッシュ 2 0 の積層体 2 5 を包んで、前記包装材料に縦方向シールと横方向シールを形成したものである。包装袋 2 4 の上面には、例えば楕円形状の取出口（図示しない）が開口しており、開封前はこの取出口がシール片で覆われている。このシール片を剥がしてピロー包装体 2 3 を前記収納部 9 へ納め、前記蓋体 3 を開口部 1 1 に嵌着した状態で、前記ピロー包装体 2 3 の取出口から前記蓋体 3 の取り出し口

2 1 を通じてウェットティッシュ 2 0 を 1 枚ずつ取出すことができるようになる。

【 0 0 4 0 】

図 2 に示すように、前記容器本体 2 の収納部 9 内を連結部材 1 4、1 7 が横断しているため、前記連結部材 1 4、1 7 が邪魔になって前記ピロー包装体 2 3 を前記収納部 9 内に納めにくかったり、前記連結部材 1 4、1 7 が前記収納部 9 内で前記ピロー包装体 2 3 の下敷きとなるおそれがある。そこで、穴 1 0、1 1、1 2、1 3 を、前記収納部 9 内に収納される前記ピロー包装体 2 3 の上面 2 3 a よりも高い位置（蓋体 3 側）に形成することが好ましい。この位置に穴を設けると、前記ピロー包装体 2 3 を前記収納部 9 内に収めるときに、前記ピロー包装体 2 3 を前記収納部 9 内で横断する前記連結部材 1 4、1 7 の下にくぐらせるだけで、連結部材 1 4、1 7 に邪魔されることなくピロー包装体 2 3 を収納部 9 内に設置でき、連結部材 1 4、1 7 がピロー包装体 2 3 の下敷きとなる不具合が生じにくい。

【 0 0 4 1 】

また、側板 6 に形成された穴 1 0 と穴 1 1 との間の最小距離 W 1 および、側板 7 に形成された穴 1 2 と穴 1 3 との間の最小距離 W 1 が、前記ピロー包装体 2 3 の最大幅寸法 W 2 に対して 7 0 % 以上であると、ピロー包装体 2 3 を、連結部材 1 4、1 7 で邪魔されることなく収納部 9 に納めることができる。

【 0 0 4 2 】

図 1 に示す収納容器 1 は、例えば月齢が 6 ～ 1 1 ヶ月程度の乳幼児用として適している。例えば乳幼児のおむつ交換の際のお尻拭きに使用するとき、乳幼児の傍に前記収納容器 1 を置くと、乳幼児は前記収納容器 1 から飛出している玩具部材 1 5、1 6、1 8、1 9 に興味を示し、これら玩具部材をしゃぶったり、あるいは振ったり、引張ったりする。図 1 に示す実施形態では、例えば前側の側板 6 の外面 6 b から外側に飛出している玩具部材 1 5 を手前に引張ると、後側の側板 7 の外面 7 b から外側に飛出している玩具部材 1 6 が前記外面 7 b に向けて移動するため、乳幼児が前記玩具部材を引張って遊ぶことができる。また玩具部材を引張ったり振ったりしたとき前記玩具部材から音が出ると特に乳幼児は面白い

り、お尻拭きの最中に、他に遊び道具を用意する必要がない。

【 0 0 4 3 】

なお図 1 では、連結部材 1 4、1 7 は、前側の側板 6 に形成された穴 1 0、1 1 から後側の側板 7 に形成された穴 1 2、1 3 にまで横断しているが、前記連結部材を穴を通して収納部 9 内に入れ、連結部材を前記側板の内面側で結んで連結部材を外側から引張っても抜けないようにしてもよい。

【 0 0 4 4 】

また前記容器本体 2 の左側の側板 5 と右側の側板 8 に前記穴を設けてもよいし、各側板 5、6、7、8 全てに前記穴を設け、いずれかの穴を選択して、その位置から玩具部材を外側に飛び出させてもよい。また連結部材を容器本体 2 と蓋体 3 の双方から突出させてもよいし、あるいは蓋体 3 のみから突出させてもよい。

【 0 0 4 5 】

図 4 は、本発明の第 2 の実施の形態の収納容器 1 A を底面側を手前に向けて示した斜視図である。なお、この収納容器 1 A の各部分のうち、前記収納容器 1 と同じ部分には同じ符号を付してその詳しい説明を省略する。

【 0 0 4 . 6 】

図 4 に示すように、前記容器本体 2 の底板 4 の外面 4 b には、レール部 3 6、3 7 が突出形成されている。このレール部 3 6、3 7 は、樹脂で前記容器本体 2 と一体に形成されていてもよいし、またはレール部 3 6、3 7 が前記外面 4 b に取付けられたものであってもよい。一方のレール部 3 6 は側板 6 寄りに位置し、他方のレール部 3 7 は側板 7 寄りに位置して、各レール部 3 6、3 7 は平行を保ちながら前記側板 6、7 に沿って延びている。

【 0 0 4 7 】

レール部 3 6 と 3 7 の対向面 3 6 a、3 7 a には、摺動凹部 3 6 b、3 7 b が、前記レール部 3 6、3 7 の長手方向（図示 X 方向）に延びて形成されている。

【 0 0 4 8 】

前記レール部 3 6、3 7 間に、玩具部材としてスライド体 3 8 が設けられ、前記スライド体 3 8 の摺動端部 3 8 a と 3 8 b が、前記摺動凹部 3 6 b、3 7 b 内に摺動自在に嵌められて、前記スライド体 3 8 が前記レール部 3 6、3 7 に沿っ

てX方向へスライド移動できるようになっている。

【0049】

前記容器本体2の底板4の外表面4bには、漫画が描かれている。図4の状態では、前記外表面4bの中央に描かれた「男の子」の絵（点線で示されている）が、スライド方向の中央に位置している前記スライド体38によって隠されている。前記スライド体38が図示左方向にスライドすると、「男の子」の絵が現われるとともに、今度は前記外表面4bの図示左側に描かれていた「熊」や「うさぎ」の絵が前記スライド体38によって隠される。また前記スライド体38が図示右方向にスライドすると、前記外表面4bの図示右側に描かれていた「うさぎ」の絵が前記スライド体38によって隠される。

【0050】

前記スライド体38は前記収納容器1を斜めに傾けたときに自重でスライドするように構成することもできる。この場合、前記スライド体38の両摺動端部38a、38bと前記レール部36、37の摺動凹部36b、37bとが隙間を有して嵌め込まれるように構成することで実現できる。

【0051】

図4に示す実施形態では、玩具部材である前記スライド体38、およびレール部36、37が前記容器本体2の底板4の外表面4bに設けられているが、前記スライド体38およびレール部36、37が、前記容器本体2の側板5、6、7、8の少なくとも1つの外表面に設けてもよいし、あるいは前記側板の外表面と蓋体3の外表面の双方に設けてもよい。

【0052】

スライド体とレール部を前記容器本体2の側板5、6、7、8の外表面に設ける場合には、容器本体2に嵌着される蓋体3に当たらない位置に前記レール部を設けることが必要である。したがって、前記スライド体とレール部を容器本体2の底板4の外表面4bに設けると、スライド体38の面積およびそのスライド範囲を広く確保できる。

【0053】

また前記スライド体38は、このスライド体38が設置される外表面4bの面積

に対し 4 0 % ~ 6 0 % 程度の面積を占めていることが好ましい。前記スライド体 3 8 が 6 0 % を超える面積を占めると、前記スライド体 3 8 をスライドさせることで現われる絵が途中で切れてその全体が見えず、あるいは前記スライド体 3 8 をスライドさせたときに見える絵の全体像を小さくしなければならず、乳幼児がその絵を判別できずに興味を示さなくなる心配がある。

【 0 0 5 4 】

一方、前記スライド体 3 8 の面積を 4 0 % 未満にすると、前記スライド体 3 8 で隠れる部分が狭くなるため、前記スライド体 3 8 のスライドによって、絵が隠れたり現われたりするといった視覚的な効果が薄れる。

【 0 0 5 5 】

また前記スライド体 3 8 が最も端にスライドしたときに、前記スライド体 3 8 と前記レール部 3 6、3 7 に形成された凹部 3 7 b の両端部 3 7 c との接触によって音が鳴るようにすると、乳幼児はさらに興味を示すようになる。効果的な音を発生させるには、前記スライド体 3 8 の左側端部 3 8 c 及び右側端部 3 8 d と凹部 3 7 b の両端部 3 7 c とを平行に形成し、前記前記スライド体 3 8 の左側端部 3 8 c 及び右側端部 3 8 d と凹部 3 7 b の両端部 3 7 c とを対面接触させることで実現でき、あるいは前記スライド体 3 8 の材質を、レール部 3 6、3 7 と違う比較的質量が大きく且つ硬質な材質で形成することで実現できる。

【 0 0 5 6 】

前記スライド体 3 8 は、乳幼児が舐めても安全な材質であることが必要である。そのためには玩具安全認定マークである「S T マーク」が付された材質で前記スライド体 3 8 を形成することが必要である。

【 0 0 5 7 】

また、前記スライド体 3 8 の摺動端部 3 8 b と摺動端部 3 8 a に、その長手方向に沿って凹部が形成され、レール部 3 6、3 7 の対向面 3 6 a、3 7 a に、前記凹部に嵌め込まれる凸部が形成されて、レール部に対してスライド体 3 8 が摺動できる構造としてもよい。

【 0 0 5 8 】

図 4 に示す収納容器 1 A は、例えば月齢が 1 2 ~ 1 7 ヶ月程度の幼児がおむつ

を交換する際のお尻拭き、あるいは手拭きや口拭きなどの使用に適している。この月齢の幼児は物を動かすことに興味を持ち、また絵の変化にも興味を示す。またスライド体 3 8 を摺動させることで、「子供」「動物」の絵が見え隠れし、幼児に興味を与えることができる。またスライド体 3 8 が自重でスライドするものでは、収納容器 1 A を手で持って振るだけで、スライド体 3 8 が動くようになり、さらに興味を持つようになる。

【 0 0 5 9 】

このためお尻拭きの最中に、他に遊び道具を用意しなくても、収納容器 1 A を乳幼児の傍に置いておくだけで、幼児が遊ぶことができる。またこの収納容器 1 A が動きを持つものであるため、手や口が汚れたときに大人がティッシュでこれを拭き取るのを嫌がらなくなる。

【 0 0 6 0 】

図 5 は本発明の第 3 の実施の形態の収納容器 1 B を示す斜視図、図 6 は図 5 に示す収納容器 1 B を V I 方向から見た正面図である。

【 0 0 6 1 】

この収納容器 1 B では、容器本体 2 の左側の側板 5 及び右側の側板 8 の外面 5 b、8 b から内面 5 a、8 a にかけてそれぞれ穴 4 0、4 1 が形成されている。前記穴 4 0、4 1 は、左側の側板 5 及び右側の側板 8 を幅方向（図示 Y 方向）に二分する中心に形成され、また側板 5 および側板 8 の上方寄りに形成されている。そして穴 4 0 と穴 4 1 は、側板 5、8 内で同位置に形成されている。

【 0 0 6 2 】

前記容器本体 2 の前記穴 4 0、4 1 には、回動自在な持ち手部材 4 2 が玩具部材の一例として取り付けられている。前記持ち手部材 4 2 の左側端部 4 2 a は、側板 5 に形成された穴 4 0 内に通され側板 5 の内面 5 a で、前記左側端部 4 2 a に抜け止め部材 4 3 が取り付けられている。また、前記持ち手部材 4 2 の右側端部 4 2 b も、側板 8 に形成された穴 4 1 内に通され、側板 8 の内側に抜け止め部材 4 3 が取り付けられている。これにより前記持ち手部材 4 2 は、側板 5 と 8 に外れることなく回動自在に連結されている。

【 0 0 6 3 】

前記抜け止め部材 4 3 は例えば持ち手部材 4 2 と同じ材質で形成されて、前記抜け止め部材 4 3 と持ち手部材 4 2 とが接着剤で接合されている。なお前記持ち手部材 4 2 の材質は、舐めても大丈夫な玩具安全認定マーク（S T マーク）が付けられたものから選択される。

【 0 0 6 4 】

前記持ち手部材 4 2 は、前記容器本体 2 の側板 6 側へ倒れる姿勢から側板 7 の外側へ倒れる姿勢にかけて回動できるようになっている。前記容器本体 2 の収納部 9 にピロー包装体 2 3 を納めるときまたは交換するときには、前記持ち手部材 4 2 を側板 6 の外方あるいは側板 7 の外方へ倒すことで、前記蓋体 3 を容器本体 2 から外すことができる。

【 0 0 6 5 】

また図 6 に示すように、持ち手部材 4 2 が、前記蓋体 3 の上面 3 a に対し垂直方向に起立した状態のときに、前記蓋体 3 の上面 3 a から持ち手部材 4 2 の下辺 4 2 c までの高さ T 1 は、前記小蓋片 1 3 を開いたときの前記小蓋片 1 3 の立ち上がり高さ T 2 よりも大きくなっている。このようにすると、前記持ち手部材 4 2 が起立しているときに、前記小蓋片 1 3 を前記蓋体 3 の上面 3 a から上方へ開放させても、小蓋片 1 3 が持ち手部材 4 2 に当たることがなく、よって持ち手部材 4 2 を起立させた状態で、収納容器 1 B 内のティッシュ 2 0 を引出すことが可能となる。

【 0 0 6 6 】

また前記持ち手部材 4 2 の折曲部 4 2 d は、湾曲形成されていることが好ましい。前記折曲部 4 2 a が湾曲していると、乳幼児がこの折曲部 4 2 a の部分と当たっても怪我をすることを防止できる。

【 0 0 6 7 】

図 5 と図 6 に示す収納容器 1 B は、例えば月齢が 1 8 ～ 2 3 ヶ月の幼児に適している。この月齢の幼児は持ち手部材 4 2 を手に持って収納容器 1 B をぶら下げるにより買い物を実際の遊びができるようになる。

【 0 0 6 8 】

したがって、おむつ交換の際のお尻拭き、食事のときの手拭きや口拭きの際に

、幼児が積極的に持ち手部材 4 2 を手で持って持ち運ぶようになり、幼児自らがウェットティッシュで拭かれるのを好むようになる。

【 0 0 6 9 】

以上、3つの実施形態について説明したが、これら各実施形態における収納容器は、前述のように月齢の異なる乳幼児に適したものとなり、またそれぞれの月齢に適したものとしてさらに変形させることができる。

【 0 0 7 0 】

図 1 に示す収納容器 1 を、例えば月齢が 6 ヶ月～11 ヶ月程度の乳児を対象に用いると、生まれて間もない乳児は、手で物を動かすよりも目の前にあるものを口に含んだり舐めたりする傾向が強いため、収納容器から玩具部材が飛出していると、乳児は強く興味を示し、この玩具を口に含んだり舐めたりする。あるいは手で動かす玩具部材として、「ガラガラ」と音が鳴る玩具部材を用いるとさらに興味を示すようになる。さらに前記収納容器 1 に、キャラクターおもちゃを玩具部材として取り付けたり、手で触って倒しても起き上がるおもちゃを玩具部材として取り付けてもよい。

【 0 0 7 1 】

図 4 に示す収納容器 1 A は、月齢が 12 ヶ月から 17 ヶ月程度の乳幼児を対象として用いられる。この時期の乳幼児は、物を自分で動かすことに興味を覚え、また物を動かすことで起こる変化に興味を示す。図 4 の収納容器の他に、例えば蓋体 3 や容器本体 2 にオルゴールが内蔵され、そのオルゴールを動かすためにねじを回すハンドル部を、前記蓋体 3 や容器本体 2 の外面から外側に突出させるようにしてもよい。乳幼児は前記ハンドル部を回すことで音が出ることに興味を持つ。あるいは受話器のおもちゃやボタンなどを前記収納容器の外面に取り付けておいたり、前記収納容器の外面に鏡を付けておくなどし、自分の存在に興味を持たせるようにしてもよい。

【 0 0 7 2 】

図 5 に示す収納容器は、月齢が 18 ヶ月から 23 ヶ月程度の成長した幼児に適している。この時期の幼児は立って歩くことができるので、図 5 のような持ち手部材 4 2 を設けて収納容器を持たせることが可能になる。その他には、容器自体

の形を乗り物の形にしたり、輪投げゲームができるようにしたり、磁石ボードやホワイトボードを容器の外面に設けてお絵描き遊びができるようにしたり、木琴などの楽器類を取り付けたりすることもできる。

【 0 0 7 3 】

また上記の収納容器を販売するときに「月齢○ヶ月～△ヶ月用」などと付して販売することで、購買者は自分の子供に合った商品を購入でき、また、月齢対象の異なる収納容器をセット販売することも可能である。

【 0 0 7 4 】

また図 1 ないし図 6 に示す収納容器は略直方形状であったが、収納容器の形態は如何なるものであってもよく例えば、図 7 のように側板 5 0 が筒状となった収納容器 5 1 に本発明を適用してもよい。

【 0 0 7 5 】

さらに図 1 ないし図 7 に示す容器本体内に収納されている内容物は、ウェットティッシュ等のティッシュ類であったが、これ以外の物を内容物としてもよい。例えば前記内容物として、使い捨ておむつを重ねて収納してもよいし、その他の乳幼児用品を収納してもよい。

【 0 0 7 6 】

【発明の効果】

以上詳述したように例えば本発明の収納容器は、乳幼児の傍に置いておくことで、例えばおしめ交換やティッシュでお尻拭きをしているときなどに、乳幼児を前記玩具部材で遊ばせることができ、別に遊び道具を用意しなくても、おしめ交換などをスムーズに行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の第 1 の実施形態の収納容器の斜視図、

【図 2】

図 1 の容器本体のみを示す斜視図、

【図 3】

図 1 を I I I 矢視方向から見た正面図、

【図 4】

本発明の第 2 の実施形態の収納容器を底板を手前にした斜視図、

【図 5】

本発明の第 3 の実施形態の収納容器の斜視図、

【図 6】

図 3 の持ち手部と小蓋片を起立させた状態の収納容器の正面図、

【図 7】

別の収納容器の形態を示す斜視図、

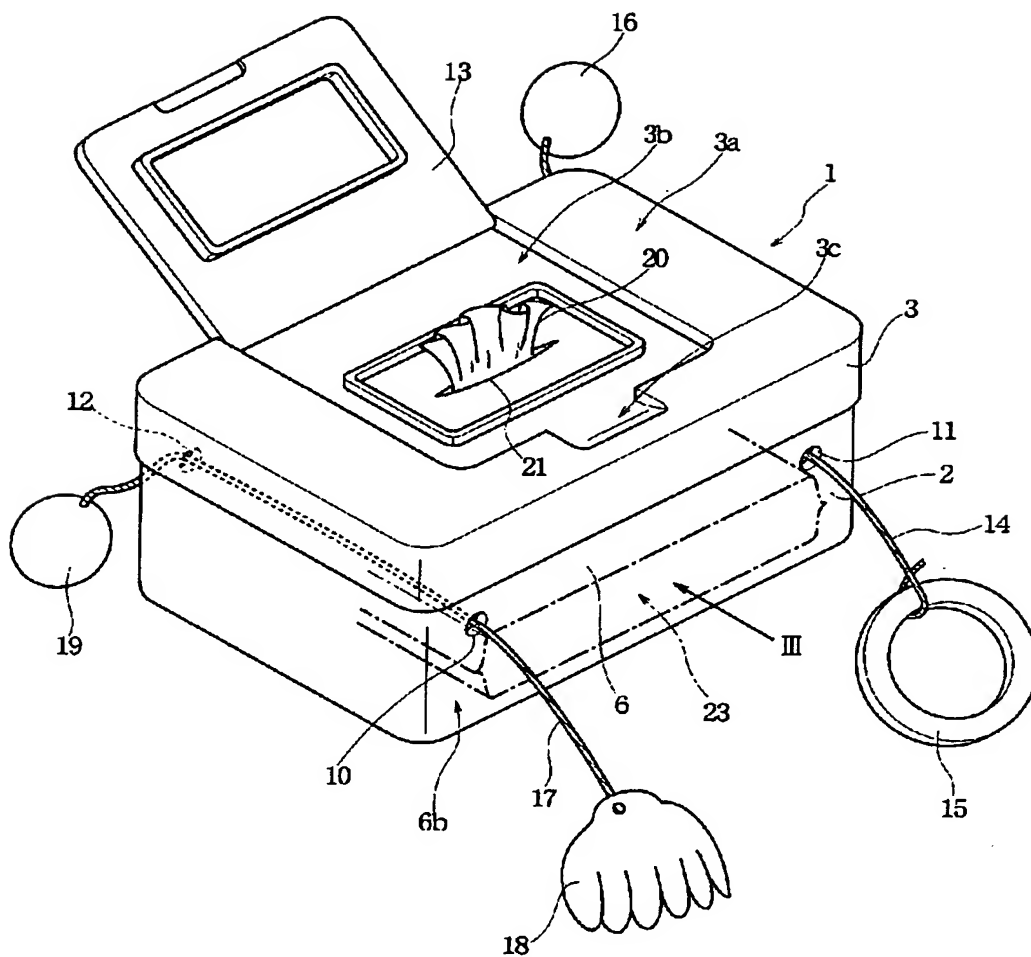
【符号の説明】

- 1 収納容器
- 2 容器本体
- 3 蓋体
- 4 底板
- 5、6、7、8 側板
- 10、11、12、13、40、41 穴
- 14、17 連結部材
- 15、16、18、19 玩具部材
- 23 ピロー包装体
- 36、37 レール部
- 38 スライド体
- 42 持ち手部材

【書類名】 図面

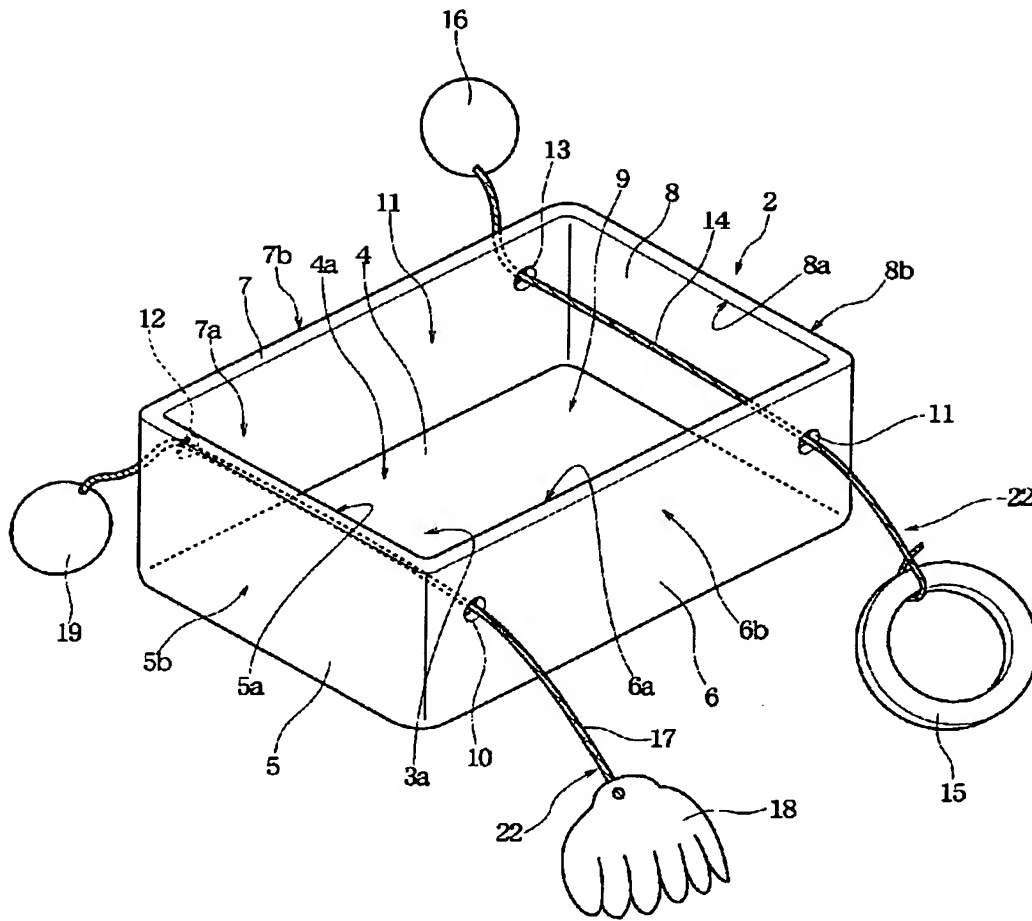
【図 1】

図 1



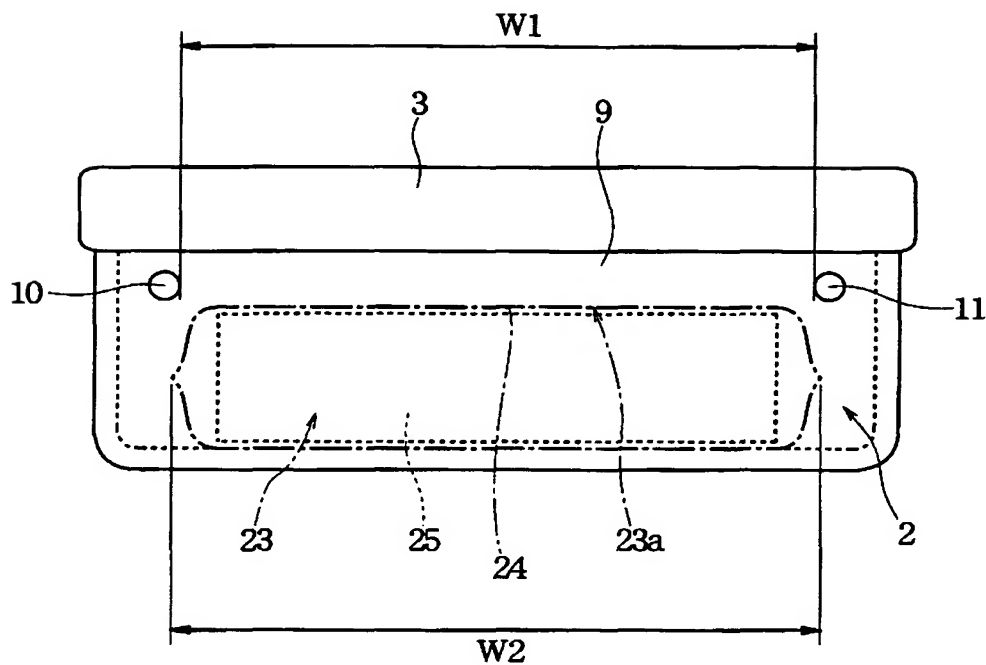
【図 2】

図 2



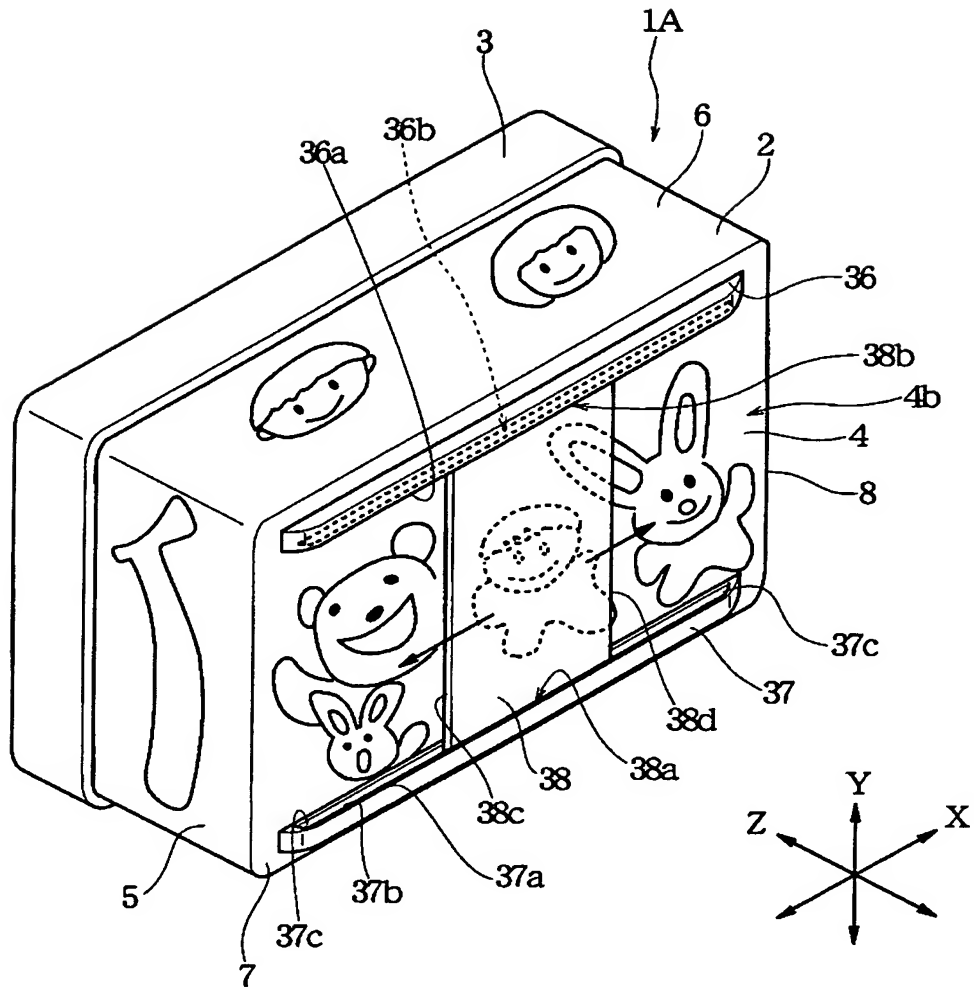
【図 3】

図 3



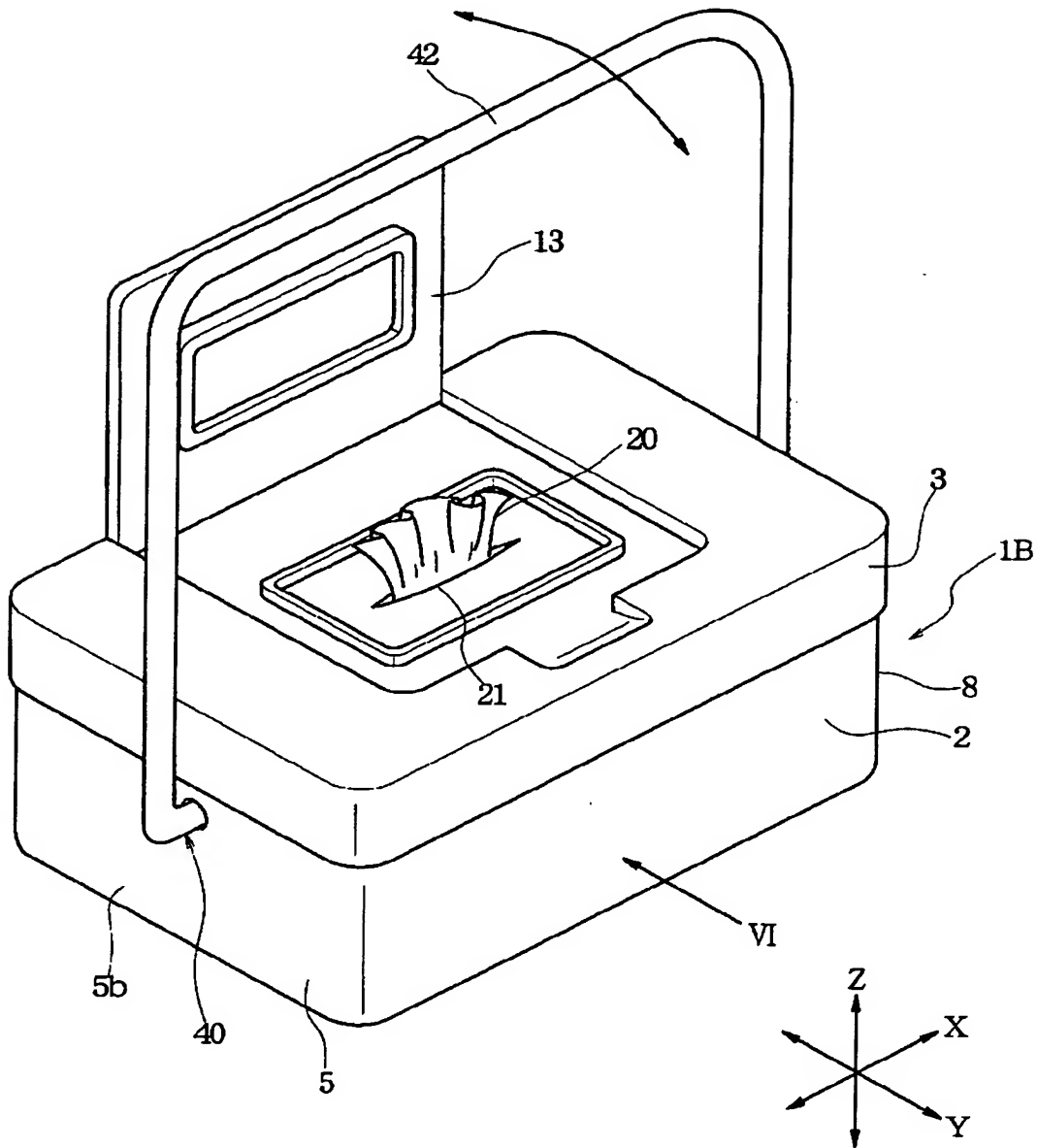
【図 4】

図 4

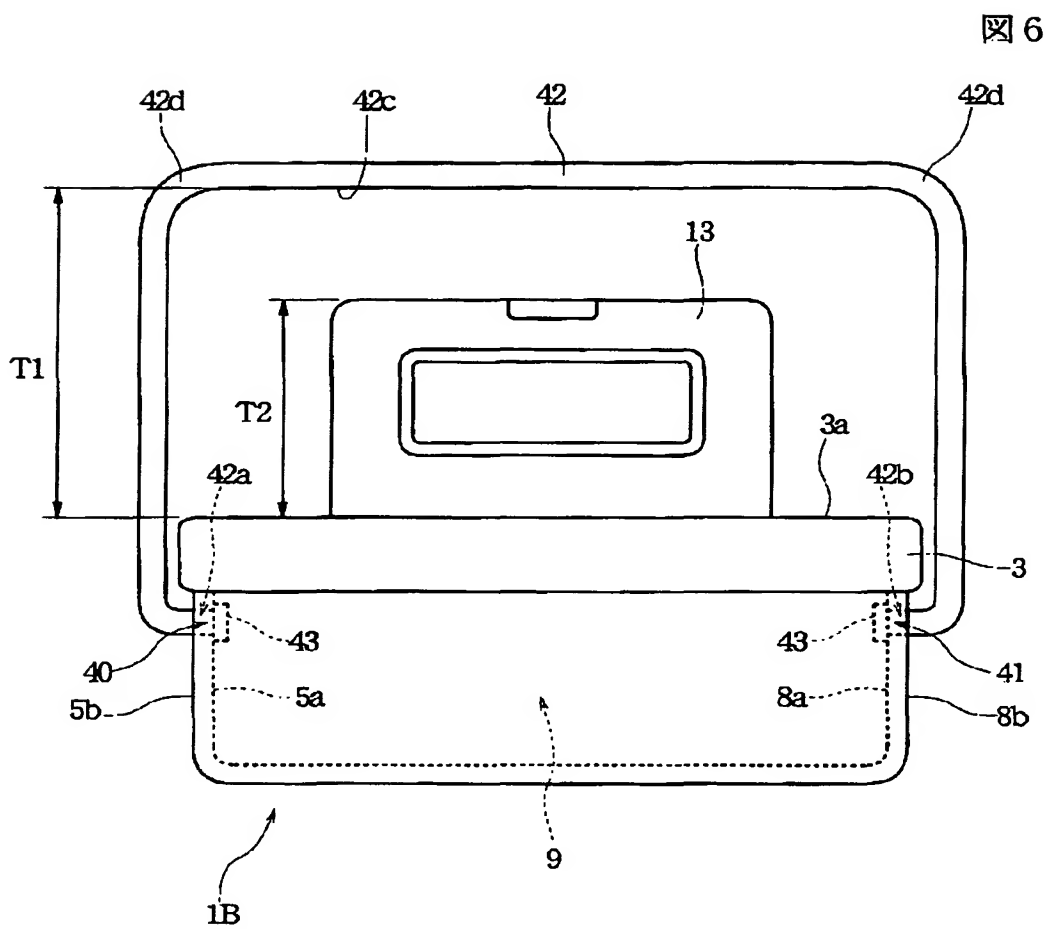


【図 5】

図 5

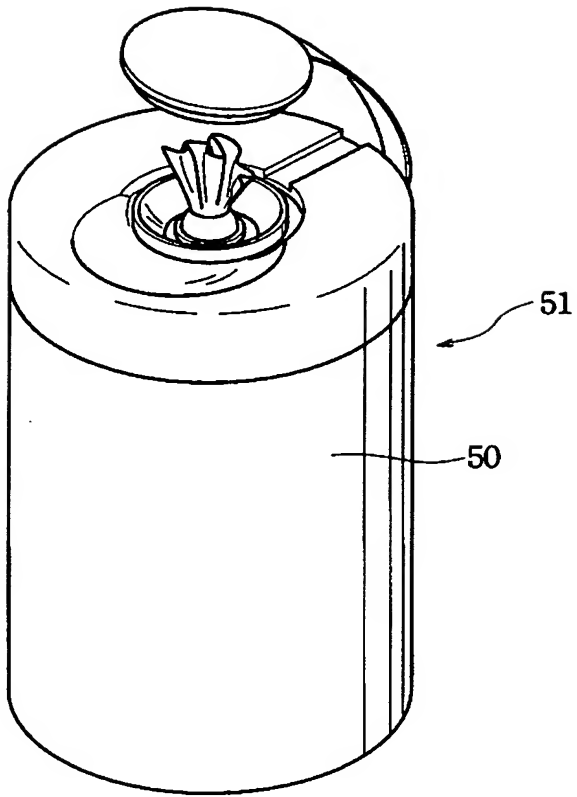


【図 6】



【図 7】

図 7



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 ウエットティッシュ等の収納容器に乳幼児用の玩具を取り付けることで、例えばおむつ交換などのときにでも別に遊び道具を設ける必要なく、おむつ交換をスムーズに行うことができる収納容器を提供することを目的している。

【解決手段】 容器本体 2 の前側の側板 6 の外面 6 b から連結部材 1 4、1 7 と、その先端に玩具部材 1 5、1 8 が取り付けられている。この収納容器 1 を乳幼児のおむつ交換のときに、乳幼児の傍に置いておくことで、母親がおしめ交換や前記容器 1 からウエットティッシュを取り出してお尻拭きをしている最中、乳幼児を前記玩具部材 1 5、1 8 で遊ばせておくことができるため、別に遊び道具を用意しなくても、おしめ交換をスムーズに行うことができる。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 1 1 5 1 0 8]

1. 変更年月日 1 9 9 0 年 8 月 2 4 日
[変更理由] 新規登録
住 所 愛媛県川之江市金生町下分 1 8 2 番地
氏 名 ユニ・チャーム株式会社